

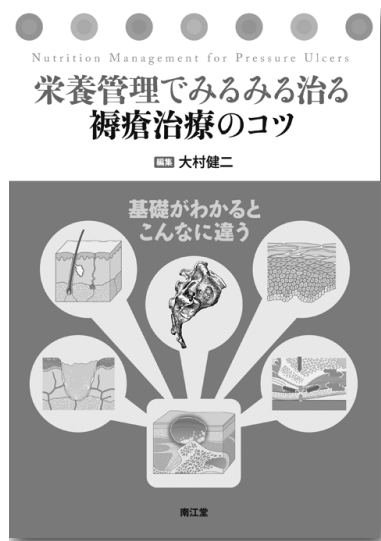
栄養管理でみるみる治る 褥瘡治療のコツ

基礎がわかるとこんなに違う

大村健二 編集

定価3150円(本体3,000円+税5%)

南江堂 ☎03-3811-7236



在宅ケアの分野で働く看護師や福祉職には、症状のアセスメント力と症状悪化を予防する力が求められます。また、チームメンバーの一員として治療経過を観察する役割もあります。

山中温泉医療センターの大村健二医師によって編集された『栄養管理でみるみる治る 褥瘡治療のコツ——基礎がわかるとこんなに違う』は、病院や介護施設はさることながら、在宅の分野で前述の役割を担う専門職に、褥瘡治療の知識とポイントをわかりやすく伝える工夫がされています。

たとえば、「ちよつとしたポイント」やもつと知りたい人のための「アドバンスな知識」のコラムが随所に入り、各々の臨床家の学習レベルに添う工夫があります。

これまでの褥瘡治療の書籍は、創処置の解説に多くのページが割かれていました。大村医師は、難治性の褥瘡の本態は「低栄養」と捉え、本書では臨床栄養に関して細やかにコツが紹介されています。

本書は、「皮膚の正常構造と褥瘡好発部位の解剖」から始まります。図が豊富ですので、理解が進みます。次に「正常な創傷治癒過程」が図とともに解説されています。

臨床では、除圧や適切な局所処置をしているのになかなか治らない事例があります。患者さんの痩せの程度や血しょう総タンパク質の値といった情報は重視しますが、どの栄養素が不足しているか考えることは、私はあまりありませんでした。カラーゲン合成には、アミノ酸以外にビタミンCや鉄、マグネシウムなどが必要で、在宅ケアでは、さまざまな事情から偏食の事例もあり、水分やカロリーはとっていても栄養素の不足はどうかという視点でみることを本書から学べそうです。

第III章の「褥瘡管理に必要な栄養学の基礎知識」では、三大栄養素の代謝など生化学の知識が再確認できるよう図入りで示されています。高度の低栄養症例に対する栄養管理では、refeeding症候群

の発症に注意して栄養投与を行なうことが具体的に解説されています。私自身、知らなかった知識がここで補充され、今後、極度の低栄養患者に出会ったときにこの判定基準が活用できると思いました。本書は臨床家が知識をすぐに活用できるように、判定のクワイテリアが豊富に掲載されています。その基準は、どれも国際的に評価されているガイドラインから引用されています。誰でも容易に栄養評価ができる簡易栄養状態評価表(MN A-SF)の紹介もあり、これは、世界中で広く用いられているもので、在宅ケアでもチームで共有できます。

本書の後半は、褥瘡のアセスメント方法や局所治療が鮮明な写真入りで解説され、わかりやすいです。また、最後には10例の具体的事例紹介があります。同居家族がまったく関わらない褥瘡ケアが必要なケースや、骨折後に褥瘡が発生した認知症高齢者のケースについて、栄養管理の実際と創部の経過が写真とともに掲載され、ここまで読み進めた本書の知識の応用が学べます。

150ページほどに、これだけの深い内容がわかりやすく盛り込まれています。褥瘡の治癒困難事例を受け持つ専門職にぜひお勧めしたい1冊です。